

かさおか島づくりのあゆみ

平成 8 年 ゲンキ笠岡まちづくり支援事業スタート

・ 元気ユニオン ・ 島芝居「きたき忠臣蔵」

誕生期

まちづくり支援事業へ各島から多くの申請が出され事業実施された。

翌年の事業報告会の中で島おこし討論会を実施、運動会の企画が上がる。

実施主体は新しく組織された各島の有志からなる「**島をゲンキにする会**」

ここが笠岡諸島の島づくりの始まりといえる。

島同士の交流

平成 9 年 6 月 ゲンキ笠岡まちづくりフェスティバル

・ 島おこし討論会（島をゲンキにする会発足）

平成 10 年 5 月 第 1 回島の大運動会（北木島）

平成 11 年 5 月 笠岡諸島生き生き会発足（女性ネット）

女性の交流

運動会のバザーについて協議するために島の女性が集まり協議したのが女性ネットの始まり、ここが島の女性の集まりの始まり。

平成 12 年 8 月 笠岡諸島ホームヘルパー 2 級養成講座実施

行政主導で島民対象に事業実施。要請後の受け入れ先がなかったため、島おこし要員として主にボランティアとして動く・・・北木島「ほほえみ」グループとして新聞発行

平成 13 年 2 月 第 1 回島づくり研修会を白石島で実施

行政の支援

平成 13 年 4 月 笠岡市が市長特命組織 島おこし海援隊を設置

海援隊を組織したきっかけは運動会の島の主張。高島の人から行政は陸から眺めるのではなく島の人と一緒に汗をかいてサポートして欲しい。我々も頑張るから島の事務局的な役割を担って欲しいとの主張をうけて高木市長が設置。特命事項は「島民になれ」。

行政と島民の協働の始まりの時期

平成 14 年 3 月 笠岡諸島離島振興計画策定

住民組織の設立

平成 14 年 8 月 電腦笠岡ふるさ島づくり海社設立（島民組織）

島合同で運動会をしている勢いで島興しも 6 島合同で行う任意組織として設立。

特徴は、各島の特徴を活かすために各島に支社をおいて北木島に統括する本社をおいて 6 島と行政が協働して組織を運営。

各島が事業を計画し、本社会議で議論し事業決定、事業実施に移す。

高島支社・・・空家対策事業、白石支社・・・遊休地を利用し綿栽培・機織の復活

北木支社・・・観光ツアー・炭焼き・特産品開発、真鍋島・・・八十八カ所の整備

飛島支社・・・椿油の特産品化、六島・・・水仙郷づくり etc

平成14年10月 笠岡諸島フィルムコミッション設立

模索期

平成15年3月 島のお達者便（北木島豊浦地区）

平成16年2月 笠岡諸島空家対策事業で滋賀の宮部さん初移住

平成17年5月 笠岡諸島「しまべん」発表

NHK おーいニッポンの企画で3ヶ月計画のプロジェクト。

平成17年9月 笠岡諸島 FC 初の映画誘致「旅の贈りもの 0:00発」

平成18年1月 笠岡諸島空家めぐりツアー実施

平成18年2月～4月 移住ラッシュ 3島に5世帯17人（うち子供8人）

空家ツアー・テレビ放映の影響で問い合わせ殺到、3ヶ月間で6回の空家めぐりツアー実施。初めて子供を持った世帯の移住が出る。・・・・・・・・空家対策最盛期

平成18年9月 かさおか島づくり海社がNPO法人格を取得

法人格取得により島づくりの第1段階を突破。今後独自の事業展開により行政と協働しながら自立の道を歩むことが地域の方が地域を守ることにつながる。名実共にお互いが協力し合える組織を強固にする必要がある。（収益事業の推進による人件費捻出・行政委託事業の開拓による委託料獲得等）

平成18年10月 北木島で過疎地有償運送事業スタート

発展期

地区限定で白ナンバー車でもあらかじめ承認された料金を取りながら運営できる。

不便な地域の方や高齢者の痛みをどれだけ自分のものとして考えることができるかが決め手

平成18年12月 初の外国人移住者「コリン」北木島へ

平成19年2月 介護保険事業スタート「海社サービスほほえみ」

介護事業者が参入しにくい島嶼部については住民自らの力で運営する以外に方法は無い。

平成19年9月5日 笠岡商店街に島の特産品直売アンテナショップ「ゆめポート」開設

笠岡諸島の特産品を中心に全国10箇所の島の特産品も販売。他にボックスショップとして市内外の方にスペース貸し出し。「しまべん」も水・日に定期販売している。